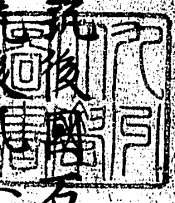
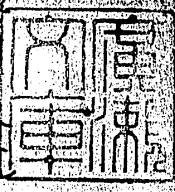


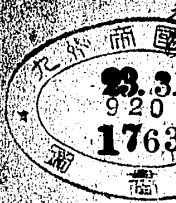
文 書 名	筑後国石人岡考・肥前領中慶考 悪七兵景清頼来考 No.
所 蔵 者 住 所 ・ 氏 名	九州大学中央図書館
撮 影 年 月 日	昭和56年 7月 15日
福岡県文化会館	

石人圖考
石人圖考
石人圖考



石人圖考
石人圖考
石人圖考

石人圖考
石人圖考
石人圖考

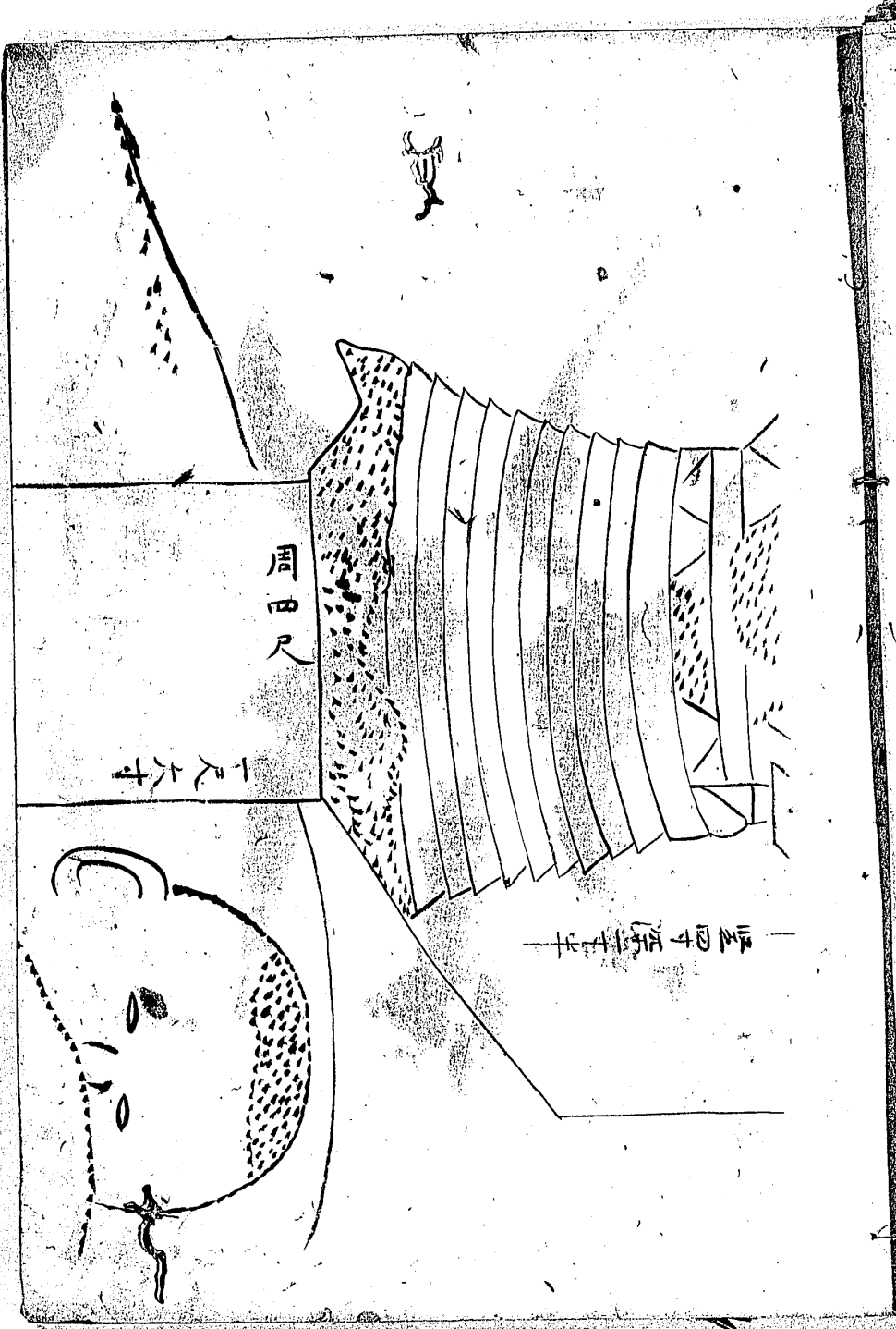
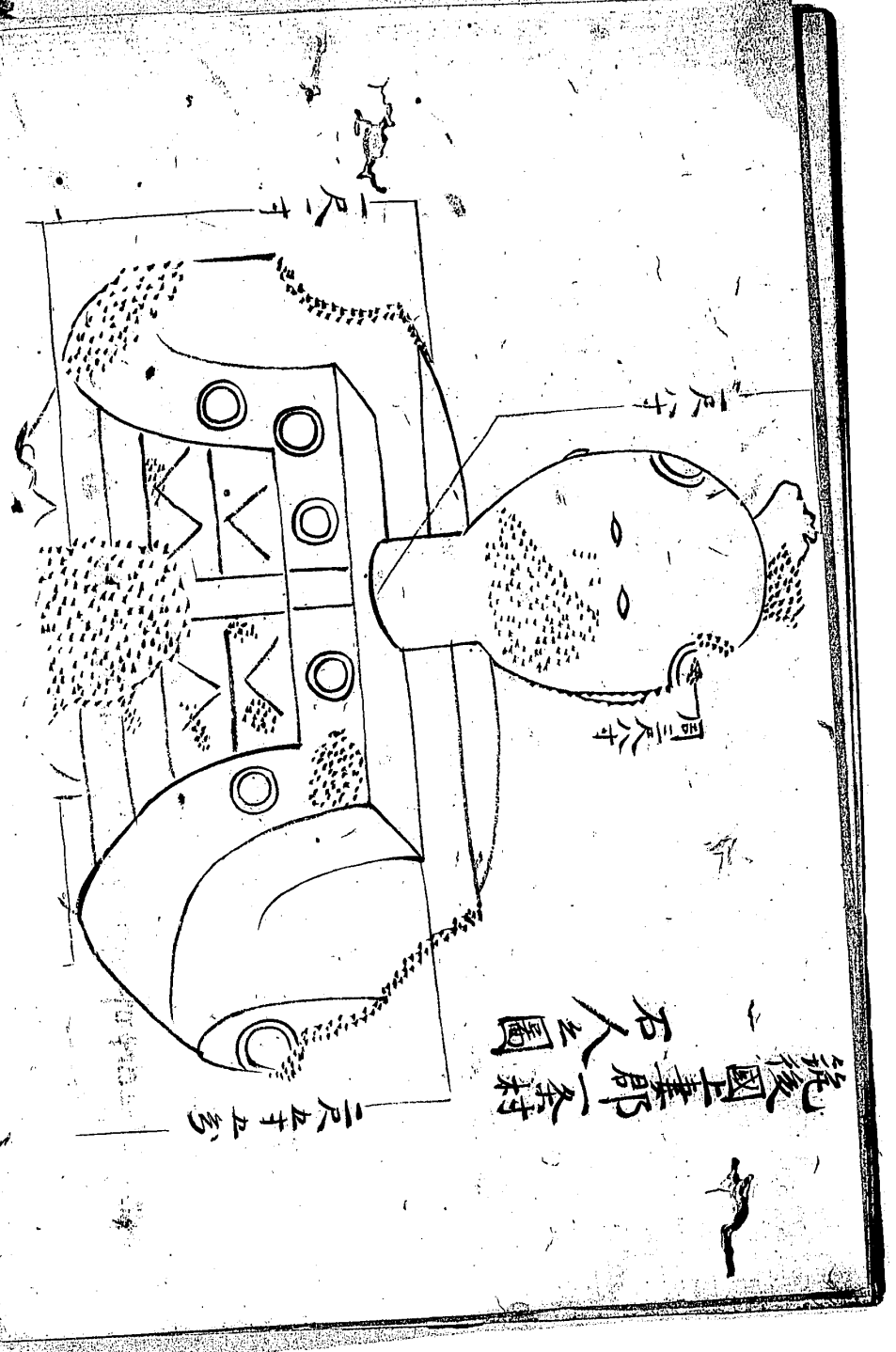


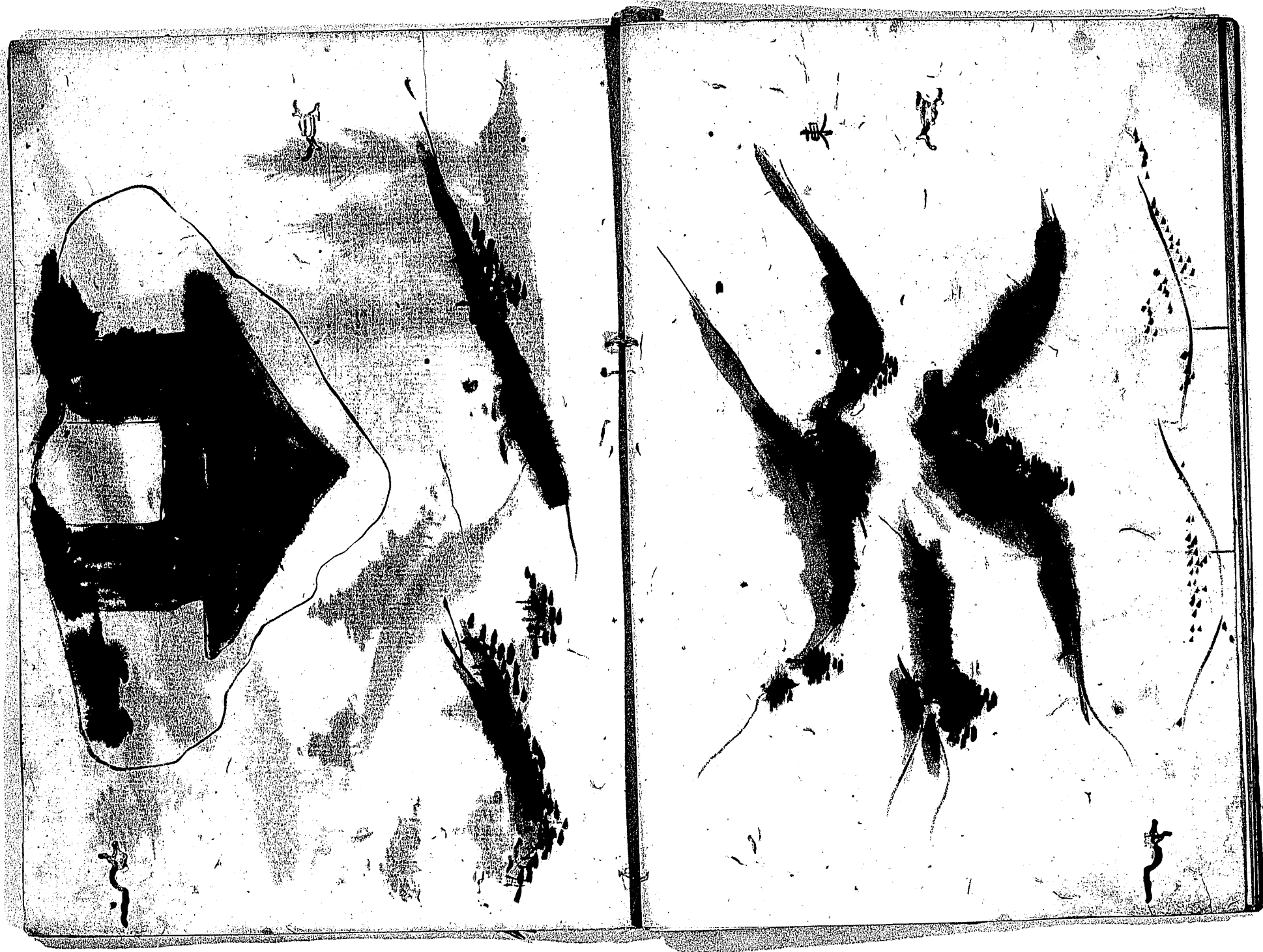
自道于豊前國上膳縣終于南山峻嶺之曲故
是官軍追尋失蹤士怒未他擊折石人之手却
漢石馬之頭古亦傳云上妻縣多有馬後蓋由云

次釋日本記

今上妻郡一条村松林内ニ石人アリ其形人ニ類
ス昔ハ石人石馬尼ニ多ク有リシヲ田中氏柝川福島
ノ塚築トキ多トノヲ石垣ニセシトミ今ハ只一ツ存セリ
石人ヨリ十間ハカリ東ニ富テ石窟アリ疑ラム凡
土記ニ所記石蔵ナラシ歟 石蔵内ニ八角ノ七尺五寸横
三尺五寸高サ二尺八寸棟ノ
高サ一尺三寸四寸ノ廣今其所ヲ人形原トシ松ノ北
サ一尺三寸余ナリ
純雜稿ノ人形原ノ条下ニ於テ村民ノ俗説ヲ記シ

三并論ヲ費以藤井氏大儒ニテ古書ヲ説知ラ
サレハ智者ノ一失ナルヘシ

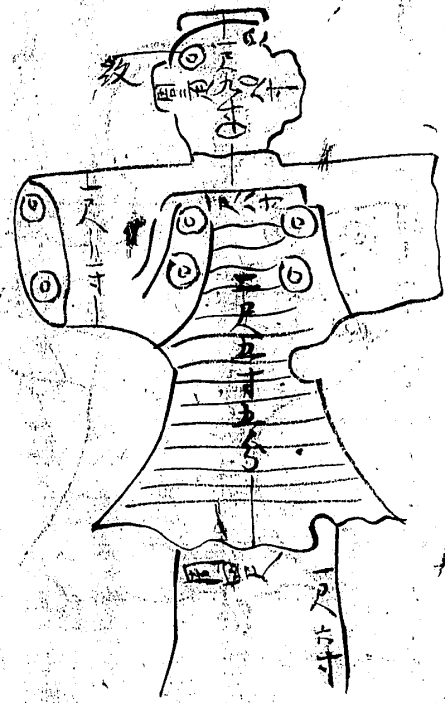






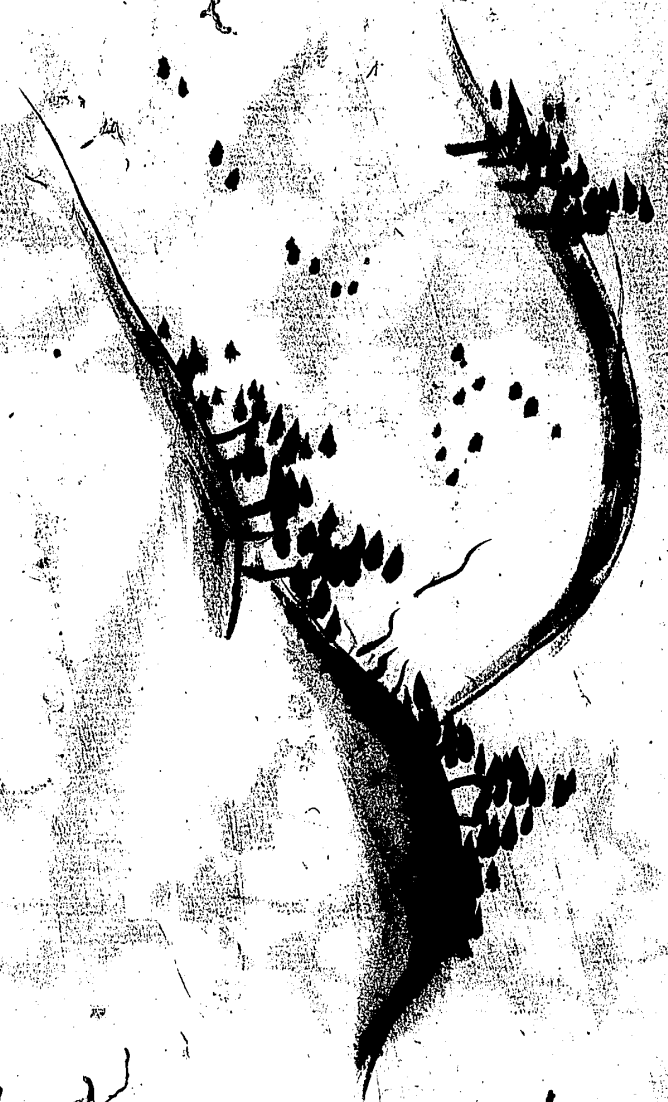


前之圖

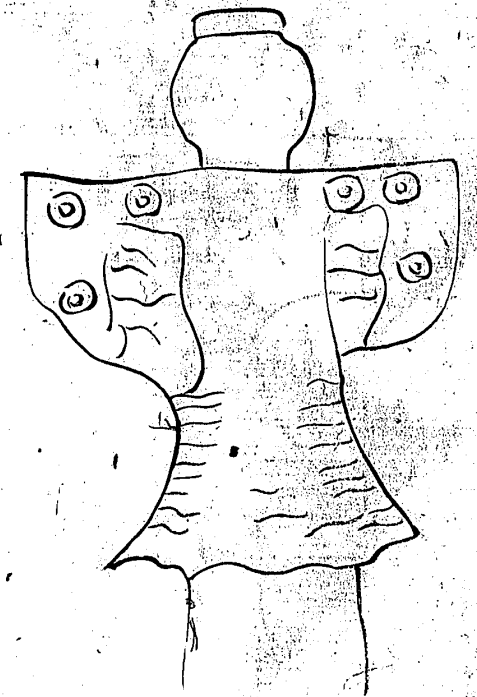


石人之圖

地上より高廿六尺



同し後



萬延元年歲次庚申七月十四日以後章三藏本膝馬鬣

標元正隆

領中磨山考

領中磨山は肥前國之根郡濱海の郷あり昔大伴
枝根彦の妻松浦淡月娘の山を産む領中磨と名
すの産山傳るなり其磨山はたゞし法皇の事
ありて御成敗の事ありてありてありてありてあり
ありてありてありてありてありてありてありてあり
ありてありてありてありてありてありてありてあり
ありてありてありてありてありてありてありてあり
ありてありてありてありてありてありてありてあり
ありてありてありてありてありてありてありてあり

天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)

天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)
天竺の地味人(天竺)の地味(天竺)の地味(天竺)

天皇二十三年(天竺)大將軍(天竺)統帥(天竺)副將(天竺)臣(天竺)瓊(天竺)
全許(天竺)新(天竺)羅(天竺)而其(天竺)軍(天竺)不利(天竺)時(天竺)為(天竺)新(天竺)羅(天竺)所(天竺)虜(天竺)謝(天竺)吉(天竺)士(天竺)
企(天竺)圖(天竺)乃(天竺)入(天竺)勇(天竺)烈(天竺)終(天竺)不(天竺)降(天竺)旋(天竺)打(天竺)羅(天竺)圖(天竺)將(天竺)拔(天竺)力(天竺)致(天竺)斬(天竺)區
而(天竺)晚(天竺)禪(天竺)道(天竺)念(天竺)及(天竺)尻(天竺)臂(天竺)向(天竺)日(天竺)本(天竺)大(天竺)吼(天竺)叫(天竺)日(天竺)本(天竺)孫(天竺)聖(天竺)我
腹(天竺)膈(天竺)即(天竺)呼(天竺)日(天竺)新(天竺)羅(天竺)王(天竺)喘(天竺)我(天竺)腹(天竺)膈(天竺)遂(天竺)救(天竺)者(天竺)區(天竺)尚

如可明由是見被其子亦與子把其父而北伊企雖辭
射難奪皆如快由是特請將師所痛其妻大妻于亦
拉見禽憤然而歌曰

柯羅俱前能基能信備能底於諸季故情
比孔南囉復蘇母非奪等性武收底

或有和曰

柯羅俱前能基能信備能底於諸季故情
比孔南囉復蘇母非奪等性武收底

八月天皇遣大伴連授于彦之領兵數萬一攻于高麗
授于彦乃用計備計中故高麗

此乃其後所記之其能信備能底於諸季故情
比孔南囉復蘇母非奪等性武收底

比孔南囉復蘇母非奪等性武收底
比孔南囉復蘇母非奪等性武收底

比孔南囉復蘇母非奪等性武收底
比孔南囉復蘇母非奪等性武收底

比孔南囉復蘇母非奪等性武收底
比孔南囉復蘇母非奪等性武收底

比孔南囉復蘇母非奪等性武收底
比孔南囉復蘇母非奪等性武收底

比孔南囉復蘇母非奪等性武收底
比孔南囉復蘇母非奪等性武收底

比孔南囉復蘇母非奪等性武收底
比孔南囉復蘇母非奪等性武收底

比孔南囉復蘇母非奪等性武收底
比孔南囉復蘇母非奪等性武收底

天平三年七月二十日筑前國司山上信良謹上

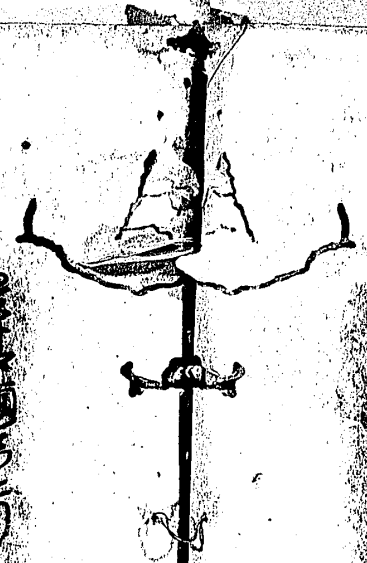
大伴佐理比古即子持被朝命奉使備國賊碑言
歸新赴倉波委也松浦地用境此別易致彼會難
即登青山之領運望難去之如帳無斷所將並新
視逐脫領中毫之傍者莫不流涕同守此山同領
中毫之嶺也乃作狀曰

得保部必尋在通良佐用比未却森列川爾
比列布利之用利於運流夜森能奈

一人保備之海之新
森谷良我多伏欲比實能致仰比列布利斯
夜森能名乃夏夜使也故之運良武
比列布利之運良武

森谷良我多伏欲比實能致仰比列布利斯
夜森能名乃夏夜使也故之運良武
比列布利之運良武

此
可
也
之
運
良
武



Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is arranged in approximately 12 vertical columns, reading from right to left. The script is dense and appears to be a form of early modern European cursive. The first column on the right contains the most legible text, while the columns to the left become increasingly faint and difficult to decipher. The text seems to describe events or transactions, possibly related to a military or administrative context, given the nature of the document's appearance.

右二卷以中山蓬萊樓金木譜馬千神明山下東志
為正三已開年辛卯九月
江蘇省 卷一

